

省エネや安全・安心 都市の国際競争力強化

阪神・淡路大震災以降に育った医療産業に次ぐ新たな産業が生まれるか。兵庫県、神戸大学、みなと銀行など産学官の7機関による今後の取り組みが地元で期待されている。神戸大学を核に、県内の産官、スーパーコンピュータ「京」などが集まり、安心で経済的な都市インフラの実現や、環境産業の創出を目指す。

7機関はほかに兵庫県立大学、兵庫工業会、ひょうご科学技術協会、新産業創造研究機構。このほど文部科学省、経済産業省、農林水産省による2012年度「地域イノベーション戦略推進地域」の選定と文部科学省の「戦略支援プログラム」の採択を受けた。地域イノベーション戦略推進地域は国際競争力強化地域として選定。神戸大先

兵庫県の産学官7機関

先端工学センターの膜技術などを軸に水資源確保、大気環境保全などによる省エネで安全・安心な都市インフラの実現を20年までに図る。

一方、戦略支援プログラムは同先端工学センターの膜技術や大型放射光施設「スプリング8」、スーパーコンピュータ「京」を組み合わせ、革新的分離膜の開発とその産業化を目指す。11年に始まり、これまで国際競争力強化地域と戦略支援プログラムに選ばれたのは兵庫を入れて7地域。「国として最も力を入れる地域の一つ。実現できる能力がある」(文部科学省)と国の期待は大きい。これらの実現には7機関だけでなく、地域でどう取り組むかにかかっており、今後の動きが期待される。(神戸)